

幼児はなぜ利他的行動をとるか

～保育の場との関連～

小林紀子

(小田原女子短期大学)

I はじめに

幼児は、なぜ、利他的行動をとるのだろうか。利他的行動とは「自分がコストを負担して利益を与える行動」(亀田、2000)を指すが、この利他的行動は互恵的でもあり、一方的な利己的行動は長い付き合いでみると利他的行動を阻む傾向にあるといえる。では、入園時期から徐々に長期的な関係が結ばれていく保育の場に於いて、その実態はどのようなものであろう。

筆者は、幼児のごっこにおける争い場面を観察し、自己を主張しつつ他者と協調する姿を見出した(平成15年度保育学会発表論文集)。そこでは、個々が主張し争いを展開する中で、遊びの流れ(ストーリー)そのものを変更(路線変更)して協調関係を結んでいた。また、この路線変更は、日本の昔話に於ける「小さ子」の争いにおける知恵の発揮とストーリー展開に関連していた。たとえば、それまでの脈絡を中断し、一旦棚上げにする「そらし」により相手を気遣いながら自己を主張できるストーリーを模索したり、「ユーモア」や「不意打ち」による意外性で争いの主導権を握るストーリーを展開したりする姿である(平成14年度乳幼児教育学会発表論文集)。そこでは、争いの過激化を避けつつも自己を主張する昔話のヒーロー「小さ子」と現代を生きる子どもの姿とが重なった。この姿の背景に、保育の場がかかわっていると考える。

そこで、本研究では、幼児の利他的行動がなぜ生じるのかを保育の場との関連で探ることを目的とする。

II 研究方法

(1) 観察園・対象児

- ・ 私立K園3年保育3歳R児とその周辺の幼児達
- ・ 公立N園3年保育5歳U児とその周辺の幼児達

(2) 観察・分析方法

- ・ 登園後、遊び開始から終了時までの一連を参与観察し、VTR及び、フィールドノーツに記録
- ・ 記録から「争い場面」を取り出し、その後の遊びの展開及び、保育の場との関連で分析・考察する。尚、その際、保育終了後の保育者との話し合いも、分析・考察に生かす。

III 事例

(1) 事例1 K園3年保育3歳児4月

～身代わりの相手に近づき恩返しをする～

A 場面：身代わりになるU児

- ① R児は、登園後、U児、Y児達と、戦いのふりをしている。
- ② R児達は、積み木で構成したものを怪獣と見立てて、やっつける。
- ③ 登園してきたO児が、それを見て「いけないんだ、こわしちゃいけないんだ」と言う。
- ④ R児達は、O児を取り囲むようにして、戦いのふりをする。
- ⑤ O児が、再度「いけないんだ」と言う。
- ⑥ R児は、O児に向けて積み木を投げつける。
- ⑦ O児が、大声で泣く。
- ⑧ R児は、慌てて逃げる。
- ⑨ U児も、O児から逃げる。
- ⑩ 保育者は、O児を抱き「どうしたの?」と聞く。
- ⑪ O児、泣きながらR児たちが逃げた方を指差す。
- ⑫ 保育者が、手前にいたU児の手を引き、「どうしたのか先生に教えて」と言う。
- ⑬ U児「だって、こわしちゃだめっていうんだもん」と保育者に言う。
- ⑭ その間、R児は物陰から様子をうかがっている。
- ⑮ 保育者「こわしちゃだめって言われたから、ぶったの?」とU児に聞く。
- ⑯ U児「ごめんなさい」と、保育者に言う。
- ⑰ 保育者「先生ではなく、Oちゃんに言って」とU児に言う。
- ⑱ U児「ごめんなさい」と、O児に向かって言う。

B 場面：U児に近づき恩返しするR児

- ① 一連の様子をずっとみていたR児は、保育者からU児が離れると、その近くに行く。
- ② R児は、U児と同じように動き、近くをうろろしている。その後、R児が作った(大切な)武器をU児に手渡している。
- ③ R・U児は片付けの時間まで、行動を共にする。

C 場面：保育終了後の話し合い

- ・ 保育終了後、副園長・担任・担任補助・VTR撮影者である筆者を交えて、当日の保育について話し合いをした。VTRを視聴した担任保育者は「えっ、もしかしたらU児じゃない?」と言いつつ、映像を見入り「明日、U児にあやまらない?」と言う。

- ・特に、入園当初のこの時期、保育者・VTR撮影者も、個々の言動を瞬時に判断することは難しいと話し合う。そのことから、恐らく、幼児間においても、それは同様であろうと話し合う。そういう状況に於いて、R児が、しっかりと、U児の言動を見つめていたのは、興味深いと話し合う。

【考察】

- ・この事例は、3歳児入園当初の互いに名前も知らない時期の事例である。A場面⑥において、R児は積み木をO児にぶつけ、争いを過激化している。しかし、O児が大声で泣き、保育者が駆けつけるという事態に遭遇し、慌てて逃げている。
- ・A場面⑩で、U児は、R児の身代わりになってO児に謝罪している。U児は、R児と同じ気持ちでO児に対していたため、この謝罪を行なったとも考えられよう。しかし、VTRでU児の謝罪の表情を見てみると、顔を背け、口を曲げたような表情であり、必ずしも納得しているとは読み取れない。
- ・B場面②で、U児は、R児から最終的に武器を譲り受けている。一連の脈絡からR児の気持ちがU児に伝わったかどうかは疑問であるが、A場面での納得していない表情は消え去り楽しそうな表情に変化している。
- ・一方、R児は一連の状況をよく捉え、U児の言動を把握していたからこそ、U児に恩返し（見返り行為）をしたと考えられる。保育者・VTR撮影者共に、状況把握が難しい中で、R児が、しっかりと状況を把握していたのは、自らに直接かかわる状況であり、O児を泣かせU児を身代わりにしてしまったという思い（罪悪感）が働いていたからだと考えられよう。

(2) 事例2 N園3年保育5歳児12月

～関係維持ストーリーに創り変える～

A場面：関係維持ストーリーを演じる

E児、F児、H児は、自分達で製作した人形を手「三匹の子ぶたとおおかみ」を演じている。子ぶたとおおかみのやりとりを繰り返し、レンガの家にやってくるというストーリー展開にしている。

- ① おおかみ役のH児は、レンガの家の煙突から入り「あちちち！」と言って逃げる動きをする。
- ② 大ぶた・中ぶた役E児、小ぶた役F児、おおかみ役H児は、再度舞台上に登場する。
- ③ おおかみ役H児「おおかみが食べようと思いました」と言う。
- ④ 小ぶた役F児「はい」と言って、リンゴをおおか

みに手渡す。

- ⑤ おおかみ役のH児「ばくっ」と言ってリンゴを食べ、帰って行く動きをする。

B場面：保育終了後の話し合い

- ・保育終了後、園長・主任保育者・全担任保育者・筆者を交え、園内研究を行なった。その際、A場面④で、なぜ、リンゴを手渡す場面を登場させるかが議論になる。I保育者が「イギリス昔話では、リンゴを巡って小ぶたとおおかみがやりとりする場面があったのでは・・・」という話になる。
- ・絵本コーナーのイギリス昔話（福音館）の中に、りんごが登場するシーンがあり、その話を断片的に取り入れつつストーリーを創っているのではないかと話し合う。

【考察】

- ・A場面④で、リンゴが登場したのは、恐らく絵本（イギリス昔話）からの影響と思われる。しかし、子ども達は、絵本の関係破綻ストーリー（小ぶたが狼を食べる）を人形劇では関係維持ストーリーに創り変えている。つまり、人形劇では知恵の働く小ぶたがおおかみを懲らしめ、なおかつリンゴをおおかみに手渡すことで、おおかみが子ぶた達を食べないという関係を導き出している。このことは、両者の今後の長期的な関係維持を予想させる結末となっている。

IV まとめ

- ・事例1から、入園当初3歳児の利他的行動は偶発性に支えられるものの、互惠的なものといえよう。この時期の幼児は、同じ動きや物の所持、イメージの共有、楽しさの共有を経験することでその相手との関係を培い、長い付き合いを予感させるものとなっている。一方、入園当初3歳児において、自らの言動を拒否する相手に対しては、過激化する争い（関係破綻）を仕掛けていた。
- ・事例2から、保育の場に於いて、複数の相手と長い付き合いを経験している年長児は、関係維持ストーリーを受け入れると同時に、それが周囲に支持されることを学んでいる。また、そこでは一方的な利己的行為は「小さ子」の知恵をもって懲らしめるというストーリーとなっていたが、相手を徹底的にやっつけるというものではない。
- ・幼児は保育の場に於いて、遊びの中で何とか相手との関係を維持しつつ自己を主張する知恵を学んでいく。そのプロセスにおいて、利他的行動が互惠であることを同時に学んでいくと考える。